



「The Grand Central Hotel」は1883年築の歴史的建造物を利用して創業したスコットランドで悠久の歴史を誇るホテルである。スコットランドを代表する建築家、ロバート・アンダーソンによる設計でビクトリア朝時代の建築様式を色濃く残している



創業当時を忍ばせるクラシカルな雰囲気のリセプションホール。メインストリート側、中央駅のコンコース側の双方のエントランスからゲストはこのホールで一緒にになる



「The Grand Central Hotel」の正面ファサード。グラスゴー中央駅に直結したステーションホテルであるが、チャーチル首相やケネディ大統領も宿泊した地元の名門ホテルだ



夕刻になると、タータンチェックの伝統衣装「Kilt」を着用した専任のバグパイプ奏者が正面玄関前で演奏を始める



筆者 **小原 康裕**
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



グラスゴー中央駅のコンコースと連結した駅側エントランスもあり、鉄道利用者には大変便利なホテルだ



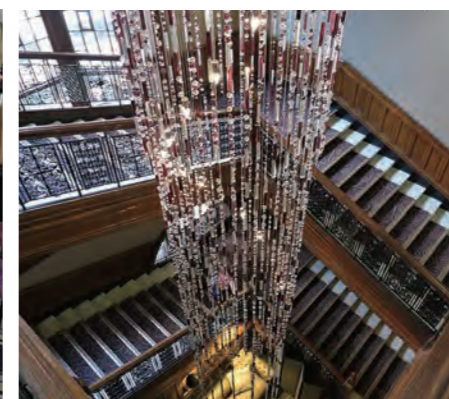
重厚なレセプションデスク。カウンター横には大型の鉄道時計が掲げられ、往時の歴史が伝わってくる



開通当時の機関車や客車の写真も飾られている



シャンパンバー「Champagne Central」に付属した「Champagne Corner」のユニークなイスの配置



創建当時の特徴が色濃く残る大階段で、上層階から長く垂れたガラスのオブジェが美しい

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのまま撮ってきた写真を掲載する。

The Grand Central Hotel, Glasgow

「The Grand Central Hotel」は1883年築の歴史的建造物を利用して創業したスコットランドで悠久の歴史を誇るホテルである。エジンバラの「バルモラル」や「カレドニアン」の開業が1902-1903年であるから、その歴史の重みを感じられる。スコットランドを代表する建築家、ロバート・アンダーソンによる設計でビクトリア朝時代の建築様式を残し、



メインダイニング「Tempus Restaurant & Bar」は地元の食材を気楽に楽しめる。列車やグラスゴーの街並みを描いた大型のペインティングが面白い



「Tempus Restaurant & Bar」のテーブルセッティング



シャンパンバー「Champagne Central」のエントランス



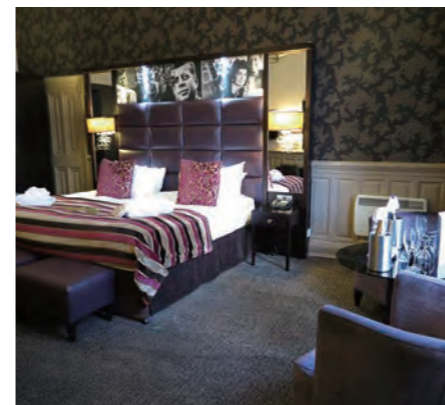
「Tempus Restaurant & Bar」に隣接してバーカウンターがある



シャンパンバー「Champagne Central」は駅構内に面しており、行き交う旅行者を見ながらの1杯も楽しい



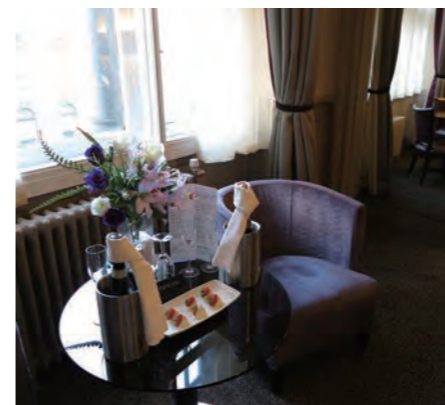
ケネディ大統領が宿泊した「John F Kennedy Suite」のベッドルーム。ベッドヘッド上部に掲げたケネディ大統領とジャクリーン夫人の大型写真が印象的だ



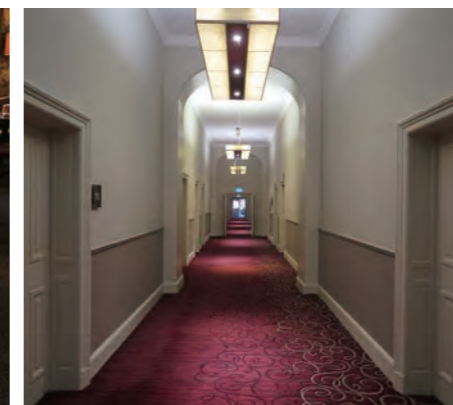
約65㎡の広さを持ち、リビングを中央に左右にベッドルームとバスルームを配置している



ベッドルームからリビング、バスルーム方向を望む



うれしいウェルカムアメニティ



19世紀の創建当時を感じさせる館内廊下

大階段やドーム型天井などの創建当時の特徴が色濃く残り興味深いホテルだ。グラスゴー中央駅に直結したステーションホテルであるが、チャーチル首相やケネディ大統領も宿泊した地元の名門ホテルである。ホテルは2009年に「Principal Hotel Company」に買収され、現在はプリンシパル・グループの傘下に入っている。

グラスゴーはスコットランド最大の人口を擁し、貿易と造船などの重工業の中心地として大英帝国の発展に多大な貢献を果たして来た。かつてはロンドン、パリ、ベルリンについてヨーロッパで4番目に人口が多い大都市であった。英国病と言われた戦後の停滞期を経て人口は半減したが、現在は文化、芸術の街へと大きく変ぼうを遂げた。中心街のブキャナンストリートは活況を呈し、質の高い美術館やギャラリーなど北方の大都市の魅力は多い。

ザ・グランドセントラルは、2千万ポンドを費やした改装工事後、全186室を擁して2010年9月に再オープンした。グラスゴー中央駅のコンコースと連結した駅側エントランスもあり、鉄道利用者には大変利便だ。クラシカルなレセプションホールは開通当時の機関車の写真や大型の鉄道時計が掲げられ、往時の歴史が伝わってくる。今回はケネディ大統領が宿泊した「John F Kennedy Suite」をご紹介したい。約65㎡の広さを持ち、リビングを中央に左右にベッドルームとバスルームを配置している。メインダイニング「Tempus Restaurant & Bar」は地元のグラスゴー料理を気楽に楽しめる。シャンパンバー「Champagne Central」は駅構内に面しており、行き交う旅行者を見ながらの1杯も楽しい。そのほか、ラウンジを備えた「Business Centre」や400名収容のカンファレンスルーム「Grand Room」などビジネス対応は充実している。

ザ・グランドセントラルは残念ながら、本格的なリノベーションの時期を失っており、建物の老朽化はかなり進んでいる。しかし逆の意味で、往時の姿をそのまま感じ取れる貴重なホテルかもしれない。また、TVドラマで話題となったニッカウキスキー創業者、竹鶴政孝氏とグラスゴー大学で知り合ったリタ夫人が、このホテルで結婚式を挙げたという逸話も残っている。